Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気ウォッチャー調査(2009年10月)　　発表日　2009月11月10日(火)

第一生命経済研究所　経済調査部
担当　主任エコノミスト　新家 義貴
ＴＥＬ：03-5221-4528

原数値		景気の現状判断（方向性）合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	景気の先行き判断（方向性）合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	景気の現状判断（水準）合計	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連
08年	11	21.0	22.5	19.2	15.7	24.7	25.9	22.9	20.7	18.9	19.9	18.0	14.3
	12	15.9	18.2	12.4	8.5	17.6	19.3	14.5	13.3	15.3	17.2	13.1	7.9
09年	1	17.1	19.0	14.6	10.1	22.1	24.2	19.3	14.9	14.6	16.1	12.8	8.3
	2	19.4	21.5	16.7	11.9	26.5	28.2	24.5	19.6	14.7	16.8	11.5	8.5
	3	28.4	30.0	27.2	20.1	35.8	36.8	36.0	29.3	19.0	21.4	15.9	10.6
	4	34.2	35.7	33.7	25.6	39.7	40.7	38.9	34.4	21.6	24.0	19.6	10.1
	5	36.7	37.2	37.1	32.3	43.3	43.6	43.6	41.3	23.1	25.9	19.9	12.6
	6	42.2	42.4	42.9	39.9	45.6	45.5	46.4	44.2	27.1	30.0	24.0	15.3
	7	42.4	41.4	45.9	41.5	44.9	43.8	47.9	45.5	27.5	29.4	27.1	16.7
	8	41.7	40.3	44.9	43.7	44.0	42.7	46.5	46.6	28.7	30.0	28.6	20.4
	9	43.1	41.8	45.7	46.1	44.5	44.1	44.9	46.3	31.5	32.9	31.4	22.8
	10	40.9	38.5	44.9	47.3	42.8	42.4	43.1	44.5	29.1	28.9	30.7	26.7

季節調整値		景気の現状判断（方向性） DI	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	前月差	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連
08年	11	21.9	23.3	20.0	16.2	−1.0	−0.5	−2.3	−2.5
	12	17.1	19.3	13.5	9.6	−4.7	−4.0	−6.5	−6.6
09年	1	19.0	21.2	16.9	11.4	1.8	1.9	3.3	1.8
	2	20.4	22.5	17.7	12.8	1.4	1.3	0.8	1.4
	3	26.8	28.0	26.1	19.8	6.4	5.5	8.4	7.0
	4	31.8	33.0	31.4	24.5	5.0	5.0	5.3	4.7
	5	35.6	35.9	36.4	32.1	3.8	2.9	5.0	7.6
	6	41.7	42.3	41.0	39.0	6.1	6.4	4.6	6.9
	7	41.1	40.3	43.1	40.1	−0.6	−2.0	2.1	1.0
	8	40.3	39.1	43.5	40.3	−0.8	−1.2	0.5	0.3
	9	41.8	41.1	44.1	42.3	1.5	1.9	0.6	2.0
	10	41.3	39.6	44.7	45.2	−0.5	−1.5	0.6	2.9

（出所）内閣府「景気ウォッチャー調査」より第一生命経済研究所試算

○ 改善は頭打ち

10月の景気ウォッチャー調査は、現状判断ＤＩ（方向性）が40.9と前月から▲2.2ポイント低下した。９月にはシルバーウィーク関連需要もあって上昇していたが、上昇は続かなかった。当社で試算した季節調整値をみても前月差▲0.5ポイントと、原数値ほどではないが低下している。景気ウォッチャー調査は08年12月をボトムとして順調に回復していたが、09年６月以降は改善傾向が頭打ちになり、横ばい圏で一進一退の推移となっている。また、先行きＤＩは、原数値で前月差▲1.7ポイント低下、季節調整値で同＋0.3ポイントの改善であるが、こちらも足元では横ばい圏内の動きとなっており、改善傾向はストップしている。過去において、景気ウォッチャー調査の景気に対する先行性は比較的高い。先行きの景気減速懸念を強める結果と言えるだろう。

○ 家計動向関連が押し下げ

今月は、家計動向関連が悪化していることがＤＩを押し下げている。エコポイント制度やエコカー減税関

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

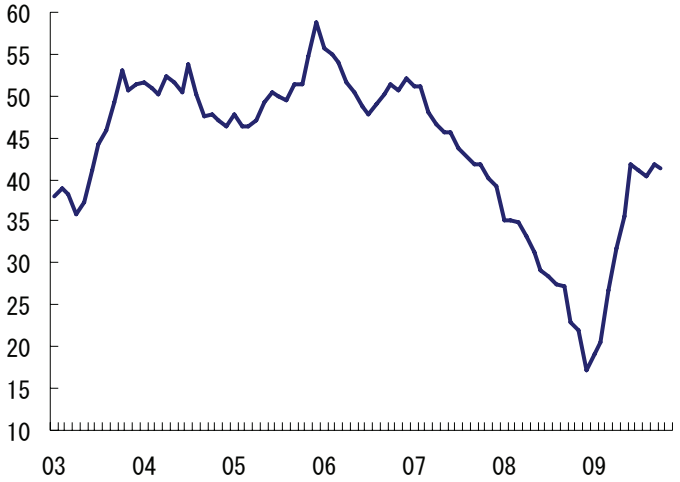
連の前向きなコメントは引き続き多いものの、経済対策の恩恵を直接受けないその他の財やサービスでは不振が続いている模様であり、「エコポイント対象となる地上デジタル放送対応テレビと冷蔵庫は好調だが、他の商品は相変わらず動きが悪い」などのコメントがみられている。「９月の大型連休に人出が集中した反動が生じたのか、来客数が減少している」など、サービス業の一部ではシルバーウィーク効果の反動を指摘する声もあった。また、「プライベートブランド商品、低価格商品が主体になり、更にセール続きで、他店との消耗戦の状態である」、「集客イベントを行っても、客が増えるのはその日だけであり、本当に欲しいものだけを買って帰る客が増えている」、「来客数は減っていないが、競合との価格競争などで単価が落ちている分、数を売っても売上が予算に達しない」など、消費者の低価格・節約志向を嘆く声が多い。結果として客単価の下落に歯止めがかかっていない模様であり、価格下落が業況を悪化させている様が窺える。また、先行きの判断については、「ボーナスが減少する客が多く、12月以降の販売は今以上に厳しくなる」など、冬のボーナスが大幅減になることが消費に悪影響を与えることを懸念する声が多かった。個人消費は、09年４－６月期、７－９月期には予想外に健闘したが、10月以降については慎重に見ておく必要がありそうだ。

○ 企業動向関連は果然ペースが鈍化。値下げ圧力の強まりが収益を圧迫

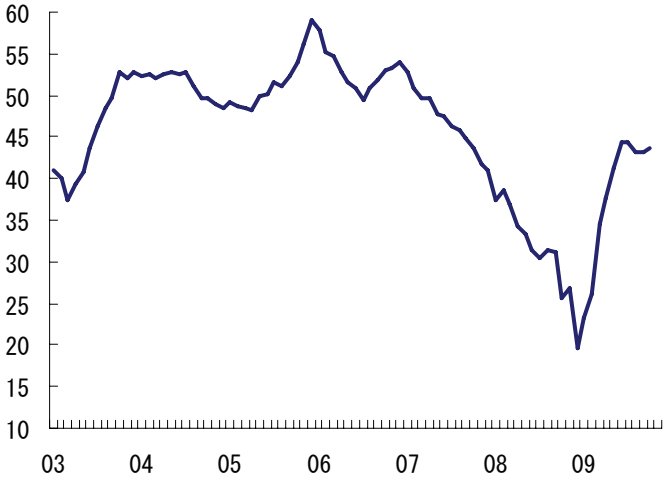
企業動向関連の現状判断ＤＩは、原数値では前月差▲0.8ポイント低下したが、当社試算の季節調整値では同＋0.6ポイントの上昇であり、改善基調はまだ崩れていない。もっとも、改善ペースは夏場以降鈍化しており、先行きの動向が懸念される。「エレクトロニクス材料を中心に、受注が上向いている。自動車関連部品は在庫調整も終わり、一部に受注回復の動きもある」など、受注の持ち直しを指摘する声が出ている一方で、「取引先からの値下げ要請、いわゆるコストダウンが非常に多く、頻繁になってきている」など、家計動向関連と同様に、値下げ圧力の強まりが経営を圧迫しているとのコメントが多い。価格下落関連のコメントはこれまでも多かったが、今月はその数がかなり増えている印象がある。また、「公共事業が激減し、民間工事も見送られる案件が多くなっている」など、公共事業の減少も悪材料になったようだ。

そんななか、雇用関連ＤＩは10ヶ月連続の改善となった。求人水準の低さなど、依然として雇用環境が厳しいことを指摘するコメントが多いが、「一時帰休等の雇用調整が一段落する会社が出てきている」「派遣を再開した企業が、数社見られる」など、これまでと比べると明るめのコメントも目立つようになってきた。先行きの改善までは見込めないものの、雇用環境が最悪期を脱しつつある可能性が示唆されている。

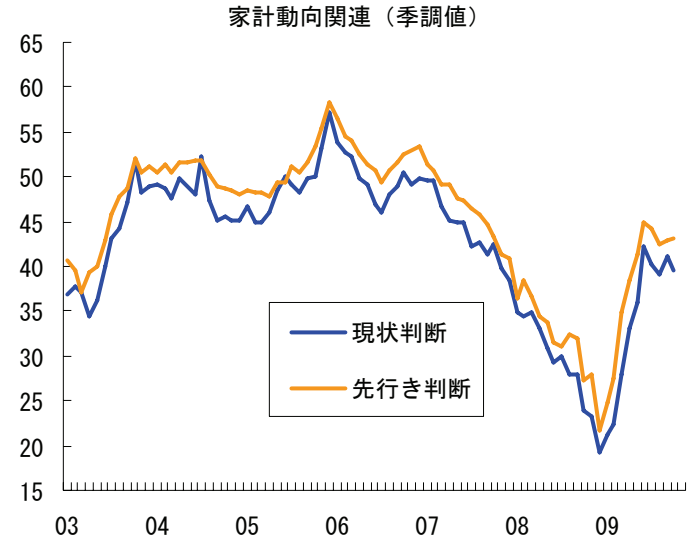
景気の現状判断ＤＩ（方向性、季調値）

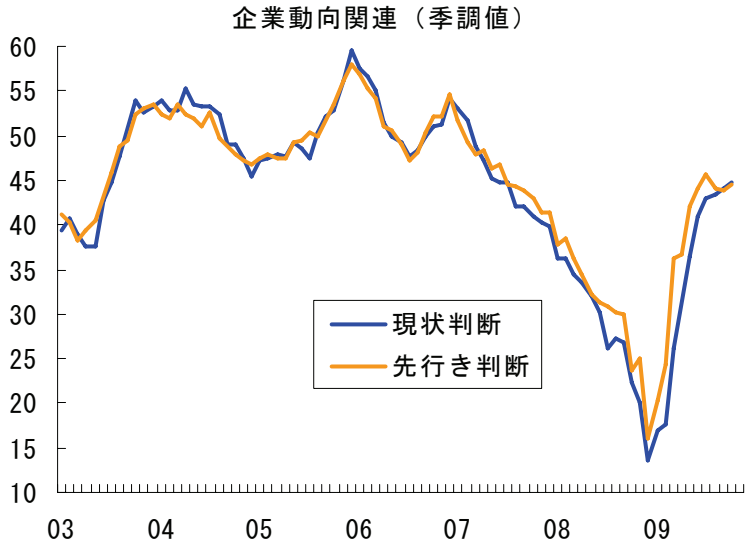


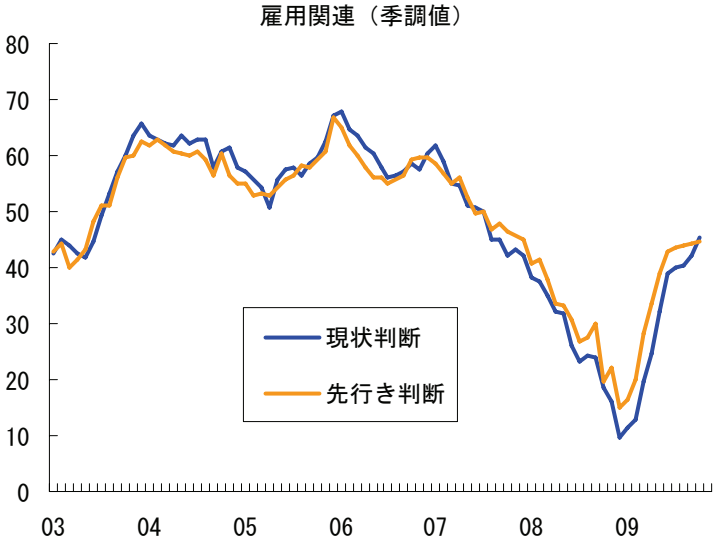
景気の先行き判断ＤＩ（方向性、季調値）

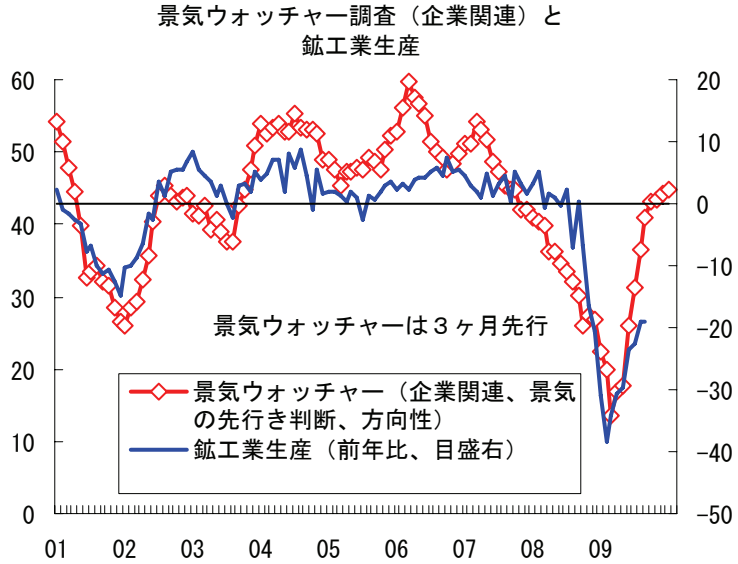


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。









本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。